

ごなんさんじよ うけひ

# 御難賛助の御誓約に始まる

## 人間の生命

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

〒四七四・〇〇五六

愛知県大府市明成町一丁目一七五

平成十六年六月二十三日

この御難賛助の御誓約と言つ詞を、今の言葉に置き換えるならば、例えどの様な事が起きようとも、三位が一体である植物・動物・人間が知瑠恵（自然界の恵み）を以って愛の産霊の為に生き、絶対に争い戦いはせずその御難を共々賛助志合い、生命界を守り合い貫き通す事を、知瑠恵（自然界の恵み）の総要の御神力氣で御座居ます「天照皇大御神」に、生命となる前の「丹生丹生魂遺伝子」の時に「宇宙産迂迦の障壁賀」に御座居ます「天の意和戸」の前にお約束したのが、御難賛助の御誓約で御座居ました。

然るに命ある総ての生氣物の靈魂であります「知瑠恵」の中の約束事で御座居ます。その御難賛助の御誓約を人間が忘却する刻が、相手を殺さなければ我が命が無いと言つ「戦争」を誰に命ずる資格があるでしょうか・・・？

一度憲法第九条に『御難賛助の御誓約』を戴いた始めの国を総理が、憲法

第九条を忘却<sup>ほつぎやく</sup>為し、替<sup>か</sup>えて自我の権力欲<sup>ため</sup>の為に「戦争をする普通の国な成る」と言うのでは、知瑠惠<sup>しるめくみ</sup>の総要<sup>そうかなめ</sup>の大神力氣<sup>だいしんりき</sup>で在<sup>あ</sup>らせられます。「天照皇大御神<sup>あまてらすすめらのおおみかみ</sup>」の大御意志<sup>おおみしころ</sup>に背<sup>そむ</sup>くと共に、「憲法を遵守<sup>じゅんしゆ</sup>する」と仰<sup>いし</sup>せになられた国民統合<sup>しちごう</sup>の象徴<sup>しるめくみ</sup>今上天皇<sup>けいめい</sup>にも背<sup>そむ</sup>く事になり、決して国民の意思<sup>いし</sup>を一つにする事は出来ず、知瑠惠<sup>しるめくみ</sup>（自然界の恵<sup>しんりき</sup>み）の神力氣<sup>しんりき</sup>とて、お許しに成るはずないのです。この日出<sup>ひ</sup>ずる日<sup>ひ</sup>ノ本<sup>ほん</sup>の国に、昭和二十年八月六日<sup>しやわにじゅうねんはつがつにじゅうろくにち</sup>広島<sup>ひろしま</sup>に、世界人類<sup>せかいじんるい</sup>史上<sup>しじゆ</sup>初<sup>はつめい</sup>めて原子爆弾<sup>げんじばくだん</sup>が投下<sup>ていげ</sup>使用<sup>しゆじゆ</sup>されたのも、始めの国と言<sup>い</sup>われる日本<sup>にっぽん</sup>の「宿命<sup>しゆくめい</sup>」なのではありませんか・・・。

人間人類<sup>にんげんじんるい</sup>の元生産親<sup>もとじゆみおや</sup>であらせられます、太元帥明王<sup>たいげんすいみやうおう</sup>（大丹生家<sup>おにゅうじや</sup>）を継承<sup>けいじゆ</sup>される昭和天皇<sup>しやわてんかう</sup>は、明日<sup>あした</sup>になれば聯合国軍<sup>れんごうこくぐん</sup>が日本本土<sup>にっぽんほんと</sup>に上陸<sup>じやうりく</sup>して来ると言うのに、戦争終結<sup>しやせんしゆうけつ</sup>の詔勅<sup>しちやく</sup>を国民にお発<sup>はつ</sup>しに成り、全国民をお救<sup>きう</sup>いに成られたので御座居<sup>ございます</sup>ました。

そして、次なる始めの国の宿命<sup>しゆくめい</sup>「核戦争<sup>かくせんじゆ</sup>」の戦場<sup>せんじやう</sup>となるを避<sup>さ</sup>ける為に、戦争を国権<sup>こくけん</sup>の発動<sup>はつどう</sup>と認めない『御難賛助<sup>ごなんさんじゆ</sup>の御誓約<sup>ごちやく</sup>』に、お従<sup>したが</sup>いに成られたので御座居<sup>ございます</sup>ました。

今、憲法第九条<sup>けんぽうだいきうじやう</sup>を改定<sup>かいてい</sup>して国民の生命<sup>いのち</sup>と財産<sup>ざいぜん</sup>を守ると言<sup>い</sup>われますが、核戦争時代<sup>かくせんじゆじだい</sup>に本土<sup>ほんと</sup>を戦場<sup>せんじやう</sup>として何<sup>なに</sup>が守<sup>まも</sup>れると云<sup>い</sup>うのでありますか・・・？良<sup>よ</sup>く考え置<sup>かんが</sup>かねば成<sup>な</sup>らぬのです。

それ以上に今考<sup>かんが</sup>えなければ成<sup>な</sup>らぬのが、経済企業<sup>けいぎけいぎや</sup>優先<sup>ゆうぜん</sup>政治<sup>せいじ</sup>が齎<sup>もたら</sup>した物が、生命<sup>いのち</sup>の源<sup>みなもと</sup>であると言<sup>い</sup>われる水の汚染<sup>おごせん</sup>ではないでしょうか・・・？

河川<sup>かせん</sup>という川<sup>かわ</sup>の水<sup>みづ</sup>が目<sup>め</sup>に見<sup>み</sup>る事が出来<sup>でき</sup>ない汚<sup>おご</sup>れに汚<sup>おご</sup>れてしまい、その河の水<sup>みづ</sup>が流れ込む湾<sup>わん</sup>の海水<sup>かいすい</sup>を汚染<sup>おごせん</sup>して仕舞<sup>しま</sup>ったのか、あれ程<sup>ほど</sup>沢山<sup>たくさん</sup>いた蟹<sup>かに</sup>も舟虫<sup>ふなむし</sup>も見<sup>み</sup>る事が無いほどに居<sup>い</sup>ないのです。またその川<sup>かわ</sup>の水<sup>みづ</sup>で賄<sup>まかな</sup>われている上水道<sup>じやうすいどう</sup>の水<sup>みづ</sup>を入れ、使用<sup>しゆじゆ</sup>したプールに遊<sup>あそ</sup>ばせた子供<sup>こども</sup>の多<sup>おほ</sup>くが、四十度<sup>しじゅうど</sup>にも成<sup>な</sup>る熱<sup>ねつ</sup>を発<sup>はつ</sup>して倒<sup>たお</sup>れると聞<sup>き</sup>く昨今<sup>けつこん</sup>のニユース<sup>ニュース</sup>は、水の汚染<sup>おごせん</sup>がそこまで来<sup>き</sup>ているのではないでしようか・・・？

「生命有<sup>いのちあ</sup>つてのものだね」と言いますが、自衛隊の装備が先か、水汚染を元に返すが先か、即、判断しなければ此の国には人が住めなく成<sup>しま</sup>って仕舞う時が近くに来ているのでは無いでしょうか・・・？

軍備を持って国を守ると言うのは、此の生命界地球では既<sup>すで</sup>に通<sup>ほ</sup>り過ぎた事態で、それを権力と言う力が国益<sup>こくえき</sup>と離<sup>は</sup>し立てて、国の防衛<sup>ぼうえい</sup>防衛<sup>ぼうえい</sup>と言って権力を守っているのでは無いでしょうか・・・？

今こそ考えを知恵<sup>しるめくみ</sup>ではなく、知瑠<sup>しるめくみ</sup>恵<sup>しるめくみ</sup>（自然界の恵み）から発<sup>は</sup>しなければ、此の地球生命界を守り切る事は出来ない時に来ているので御座居ます。

合 掌